

平成31年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査結果 課題分析表 (小学校)

教科ごとの「教科の観点」における平均正答率の比較

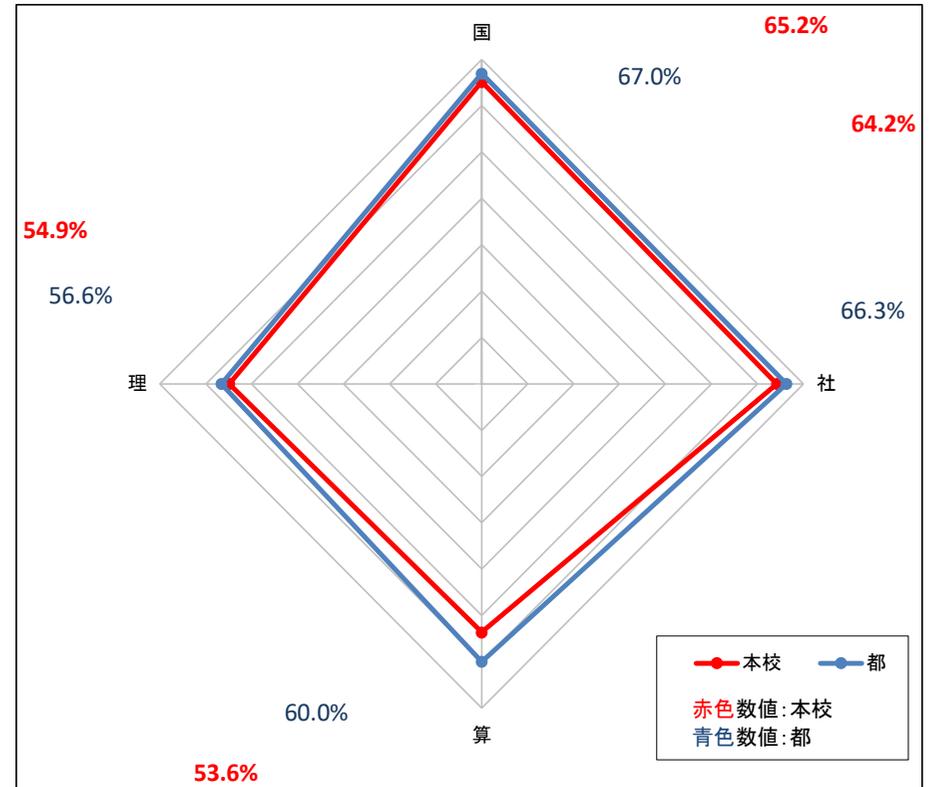
#N/A

国語	教科の観点				教科の合計
	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	
東京都	65.9%	70.9%	67.1%	65.9%	67.0%
本校	65.0%	73.5%	64.9%	62.1%	65.2%
都との差	-0.9	2.6	-2.2	-3.8	-1.8

社会	教科の観点			教科の合計
	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 の技能	社会的事象について の知識・理解	
東京都	63.1%	66.5%	69.8%	66.3%
本校	63.3%	65.1%	63.5%	64.2%
都との差	0.2	-1.4	-6.3	-2.1

算数	教科の観点			教科の合計
	数学的な考え方	数量や図形について の技能	数量や図形について の知識・理解	
東京都	46.4%	65.2%	67.8%	60.0%
本校	40.1%	58.5%	62.0%	53.6%
都との差	-6.3	-6.7	-5.8	-6.4

理科	教科の観点			教科の合計
	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象について の知識・理解	
東京都	52.9%	66.4%	55.0%	56.6%
本校	52.0%	65.1%	52.4%	54.9%
都との差	-0.9	-1.3	-2.6	-1.7



《都との比較にみる本校の状況》

国語の「書く能力」の項目は、全国平均を上回る結果になった。それ以外の項目では全国平均を下回っている。算数に関しては、全ての項目において、都の平均を大きく下回る結果となった。
観点別の調査結果からみると、社会と理科では「思考・判断・表現」「技能」は、都の平均とほぼ同程度である。一方で、算数と社会の「知識・理解」の観点では、都の平均を大きく下回り、課題となっていることが分かった。

《授業改善のポイント》

国語においては、知識・理解の項目が都の平均を下回っていることから、国語の基本的な知識・理解を高めるために、日々の読書や漢字の習得の指導を意識して行う。
社会においては、国語と同様、知識・理解の項目が都の平均を大きく下回っていることから、教科書や資料集にある地図や絵図、グラフなどから基礎・基本的な知識・理解を確実にするために、丁寧な指導を心掛ける。知識・理解を定着させるため、家庭学習との連携も図り、繰り返し復習をしていく。
算数においては、全ての項目において都の平均を大きく下回っていることから、数量関係を捉える力や四則計算の計算能力など、基礎・基本の能力に課題があるといえる。習熟別少人数クラス指導を取り入れていることを生かし、基礎・基本に関して丁寧できめ細やかな指導を継続していく。さらに、補習や東京ベーシックドリルの活用、宿題を通して繰り返し課題に取り組みさせることで定着を図っていく。
理科においては、特に「知識・理解」の項目が都の平均より下回っていることから、実験・観察の結果を丁寧に読み取り、理解させ、それらの知識を繰り返し復習などを行いながら、定着を図れるよう指導していく。

《家庭・地域への働きかけ》

家庭学習キャンペーンや、健康貯金の取り組みを通して、家庭学習や基本的な生活習慣の確立への家庭の意識を高めていく。その上で、日常の宿題においても、保護者の方に丸付けやチェックなどで協力をしてもらいながら、児童の学習状況を把握してもらおう。家庭と協力をしながら児童の学力向上を目指していく。